

令和5年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立 大宮北 高等学校)

学校番号 s 4 9

目指す学校像	SSH指定校として「自主・自律・創造」の校訓のもと、自ら育んだ高い「志」を実現し、次代を担い国際社会をリードする人材を育成する。
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>SSH指定校としての取組を起点に、全校生徒の「志」を育み、一人ひとりの第一志望の進路を実現する。</li> <li>自ら課題を発見し、解決する主体的な学習態度を育てるとともに、授業の質を向上させ、社会のリーダーとなる確かな学力を身に付けさせる。</li> <li>北高生としての品格を高め、健全な心身と豊かな人間性を育む。</li> <li>地域の理数教育拠点校として活動すると同時に、グローバルな研究活動を展開して国際社会へ開かれた学校に発展させる。</li> </ol>
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

学 校 自 己 評 価						学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標						年 度 評 価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p>&lt;現状&gt; ○第Ⅱ期SSHの2年目に入る。第Ⅰ期と比較して、課題研究の深さや広さ、対応教員の教科・科目も広がっている。探究的な学びと親和性の高いICT(タブレット端末)を活用して、学びを深化させている。 ○昨年度、大学入学共通テストは3年生の96%にあたる300名が受験した。東工大への現役合格者が2名、国立大学医学部医学科に1名合格し、国公立大学合格者は現浪合わせて40名、早慶は7名合格した。学校として国公立大学合格は年々増加し、生徒の学力は着実に伸びていることが分かる。</p> <p>&lt;課題&gt; ○新学習指導要領を踏まえた、本校の課題研究型授業の構築が大きな課題である。教職員の探究的な学びに係る研修により、指導方法の蓄積と共有が必要である。また、SSH推進部やカリキュラム委員会はもとより、全職員一丸となった意識づけ、対応が必要である。 ○本校のSSH、授業や部活動、市教委の各種プログラムへの参加など、生徒は主体的、積極的に取り組んでいる。また、教職員も熱心に準備や運営に取り組んでいる。それらを学校内外に伝えるための情報発信の工夫が必要である。</p>	SSH校として外部人材・組織との連携	<ol style="list-style-type: none"> <li>SSH基礎枠を活かしたフィールドワーク、課題研究プログラムを推進する。</li> <li>福島県の企業とともに街の復興を目指すプロジェクト「HAMADOORI REBORN」を2学年生徒全員が実施する。</li> <li>大学や企業と連携し、専門的な知見を得る学びを推進する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>各種フィールドワークの参加者数、参加満足度、コンピテンシー検証、生徒及び学校自己評価</li> <li>「HAMADOORI REBORN」における連携企業及び自治体、生徒のプレゼン内容、現地校との交流</li> <li>連携した大学、内容。大学の先生や学生との交流回数及び人数。研究内容、生徒及び学校自己評価</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>国内F.W.208名、海外F.W.68名参加、学校外の学びを推進した</li> <li>福島県内6自治体と連携し、復興アイデアをプレゼン。生徒34名がふたば未来学園や安積高校と交流</li> <li>3つの大学や理研、KEK、Spring8等、専門的実験や講義受講をした</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>国内F.W.208名、海外F.W.68名参加、学校外の学びを推進した</li> <li>福島県内6自治体と連携し、復興アイデアをプレゼン。生徒34名がふたば未来学園や安積高校と交流</li> <li>3つの大学や理研、KEK、Spring8等、専門的実験や講義受講をした</li> </ol>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(課題)生徒による探究的な学びに対する態度やスキルの育成(改善策)教員研修の充実。生徒へ継続的研究の呼びかけ。大学等の専門的機関と連携</li> <li>・(課題)SSH行事における教員業務の負担感(改善策)目的の再定義。効率的・効果的なF.Wの再設計・実践。人的な支援体制と全教職員の協力体制(課題)新課程入試に対する保護者への情報提供(改善策)教員の積極的な情報収集と情報共有。学校メール等を活用した保護者への情報提供</li> </ul>
2	<p>&lt;現状&gt; ○全生徒が持っているタブレット端末を利用して、授業にて学習支援ソフト、テレビ会議アプリなどを使い、効率的・効果的な指導方法を研究し、アクティブラーニングを推進している。 ○昨年度、課題研究「STEAMS Time I」を行い、教科横断型課題研究を実践した授業を展開した。 ○新学習指導要領実施2年目となり、各教科における評価標準のたて方、保護者や生徒への周知の方法について、指導と評価の一体化を目指し、研究を進めている。</p> <p>&lt;課題&gt; ○物価高の影響を受け、海外との交流事業について安価でかつ効果的なプログラムになるよう、現地スタッフとの連絡・調整を欠かさない。 ○全体・個人のwell-beingにつながることを目指し、教職員の仕事のやりがいと負担軽減のバランスをどこに定めるか課題となっている。 ○担当者への入れ替わりを考慮し、業務の引き継ぎを含め、さらなる効率化を図る。</p>	ICTの強みを生かした授業力向上と情報発信	<ol style="list-style-type: none"> <li>「STEAMS Time I/II」を複数教科の教員が担当し、生徒の探究的な学びのニーズに合わせて、指導・助言する。</li> <li>授業の目的に応じてICT機器を活用し、授業支援サービスやテレビ会議アプリを利用した教育実践を行う。</li> <li>HP等を活用して、学校の情報を発信する。</li> <li>学校説明会の内容を充実させ、受験生や保護者が学校に対する理解を深められるように情報提供する。</li> <li>教員の主体的な研修を促進し、指導力の向上を図る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>「STEAMS Time I/II」に関わった教員数、研究発表数、研究内容、発表方法、周知の方法</li> <li>授業支援ソフトやテレビ会議アプリの使用状況、利用割合。ICTの効果的な授業実践の蓄積</li> <li>学校HPの毎週1回以上の更新</li> <li>学校説明会の前年度参加者数と今年度参加者数</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>STEAMS Time I教員17名。II教員20名担当計89本の多様な発表</li> <li>Google classroom、classi noteなど授業支援ソフトの実践</li> <li>HP214回更新(2/9現在)。中学生・保護者に最新の情報を提供</li> <li>今年度3057名参加。昨年度比130%。志願者普通科1.39倍、理教科2.15倍(2/9現在)</li> <li>年3回の面談の中で、教職員の研修の実施状況の確認と推進</li> </ol>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(課題)学校説明会の回数と教員の働き方改革のバランス(改善策)学校説明会の同日複数回・複数場所での実施</li> <li>・(課題)外国人生徒の受け入れ体制(改善策)本校保護者へのホームステイの受け入れ募集</li> <li>・(課題)海外プログラムにおける外国人生徒との協同的な実験活動の取組(改善策)外国人生徒と本校をつなぐオンラインプログラムの推進。本校独自の理科実験プログラムの創出と教員の開発</li> </ul>	
3	<p>&lt;現状&gt; ○「自主・自律・創造」の校訓のもと、多くの生徒は落ち着いた高校生活を送っている。 ○自転車通学、交通機関を利用した通学ともに、多くの生徒は安全に登下校をしている。 ○教育相談の件数が、年々増加している。</p> <p>&lt;課題&gt; ○生徒自ら学校生活の中で主体的に判断し、行動できるような活動をもっと増やす必要がある。 ○事故件数を減らすこと、自転車ヘルメット着用率を今より高める必要がある。 ○教育相談が必要な初期の段階で、専門家と相談できる体制づくりを今より強固にする必要である。</p>	安心、安全な高校生活	<ol style="list-style-type: none"> <li>ヘルメット着用点検、挨拶運動、登下校マナーアップ、駐輪マナーアップを行う。</li> <li>携帯・インターネット安全教室を年度当初に実施し、年間を通じて生徒のネットモラルの向上を図る。</li> <li>学校内の危険箇所を把握するとともに、早期改善の必要性があれば早急に修繕等を行う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>風紀委員会を中心とした生徒主体の活動。登下校、挨拶について学校関係者、近隣住民からの評価</li> <li>携帯・インターネット安全教室の実施。トラブル数の減少</li> <li>学校運営協議会及びSSH運営指導委員会による敷地内及び校舎内の定期的な安全点検、修繕の実施</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>年3回の風紀委員会による駐輪点検と登校指導の実施。ヘルメット着用周知。自転車重大事故の減少</li> <li>インターネット教室等の実施、SNS利用マナーについて随時配信</li> <li>月1回の敷地内外の安全点検実施。随時、修繕の迅速な実施</li> </ol>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(課題)ヘルメット着用率や自転車運転時のイヤホン着用率(改善策)生徒の主体的な行動を促すマナーアップの取組。風紀委員会による呼びかけ</li> <li>・(課題)生徒が困ったときのカウンセリングを申し込みやすい環境の整備(改善策)スクールカウンセラーによる生徒への紹介と講話の実施。教員による生徒への積極的な声かけと面談の実施</li> </ul>	
4	<p>&lt;現状&gt; ○SSHにおいて今年度より科学技術人材育成重点枠の指定を受け、海外連携事業の開発を推進し、生徒に提供する。 ○第Ⅰ期SSHから地域の理数教育拠点校として、「自由研究サポートプログラム」「ASEP JHS」「サイエンス教室」など行っている。 ○令和4年度から市内の小中学校は「STEAMS TIME」を実施し、本校でも令和4年度から「STEAMS Time I」を1学年で実施している。また、令和5年度から「STEAMS Time II」を2学年で取り組む。</p> <p>&lt;課題&gt; ○さいたま市独自の「STEAMS TIME」について、12年間のつながりを意識し、系統性、発展性を目指した授業を研究する。 ○海外の現地校とお互いにとって充実したプログラムとなるよう、体験プログラムや事前研修の計画を立て、継続的に実践する必要がある。</p>	SSH校としての地域の理数教育拠点校としての取組	<ol style="list-style-type: none"> <li>「自由研究サポートプログラム」「ASEP JHS」「STEAMS PARTY」「サイエンス教室」など、地域の小中学生プログラムを開催する。</li> <li>市内の小中学校の「STEAMS TIME」から、本校の課題研究「STEAMS Time I/II」までの12年間のつながりを意識し、系統性、発展性を目指した授業を研究する。</li> <li>学校運営協議会やSSH運営指導委員会を実施し、地域や理数の専門家から指導・助言を得る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>プログラムへの小中学校の参加校数、参加者数、参加満足度、参加教員数</li> <li>「STEAMS Time」に関する内容及び取組について、市内の小中学生や教員との意見交換の内容及び回数、振り返り</li> <li>学校運営協議会及びSSH運営指導委員会の回数、意見交換の内容、振り返り</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>アウトリーチプログラム小中学生147名参加し、近隣の児童が多く参加。本校教員14名参加</li> <li>小中学校教員対象講座6名参加。STEAMS TIME小中教員打合せ3校7名が意見交換</li> <li>学校運営協議会3回実施。SSH運営指導委員会3回実施。委員の先生方から天体、課題研究、さくらサイエンスなどの実験等で直接指導</li> </ol>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(課題)新規の活動となるSTEAMS PARTYの進め方(改善策)小中学校の教員との情報共有、ニーズの把握。スモールステップで取り組める計画と実践</li> <li>・(課題)学校運営協議会やSSH運営指導委員会の充実(改善策)委員と教員との活発な意見交換の工夫。学校からの丁寧な情報提供</li> <li>・(課題)海外研修の代金(改善策)重点枠予算の分配の工夫。研修内容の効率化</li> </ul>	

実施日令和6年2月15日

学校関係者からの意見・要望・評価等

・国内外のフィールドワークへの参加者が多く、学校内での教科等の学習と学校外での多様な活動における学びが、両輪で行われていることは評価できる。  
・久しぶりにPTAが大勢集まって進学勉強会が開催されたことは評価できる。今後、保護者目線の受験体験の講話、新課程入試に対する情報共有会などが開催されることを期待する。  
・連携した大学とのプロジェクトや専門的な実験ができる施設での実習などの取組が素晴らしい。生徒が自ら行う課題研究などに活かされるとより一層、探究心が育まれると考える。

・中学生やその保護者に対して、HPや学校説明会での学校情報の発信や地域の子どもたちへのアウトリーチ活動などによって、志願率が昨年度よりも高くなったのではないかと。  
・デジタル人材や外国語を話せる人材を集めたいのであれば、積極的にPTA等に声かけをして、人材派遣を依頼することができるのではないかと。  
・達成度でA~Cを付けた基準が分かりづらい。各項目ごとにあらかじめ達成基準となる数値目標を掲げ、それに基づいて評価すべきではないかと。

・ヘルメットの着用や自転車運転時のイヤホン着用などについて、事故が起きてからでは遅いので、より厳しく継続的に指導してほしい。3年間の高校生活を健康で、元気に過ごしてほしい。  
・昨今の状況を踏まえ、不審者の侵入に対して防犯カメラを設置したり、門扉を閉じたりするなど、学校の防犯対策をより一層行う必要があると考える。  
・学校施設において修繕が必要な箇所については、引き続き迅速に対応して、安全・安心な学習環境をつくってもらいたい。

・宮原地区にある小中高の交流、地域と学校との交流が活発に行われていると感じている。さらにつながりを深くし、地域全体で見守り、子どもたちが成長できるとうれしい。  
・学校評議員会について、時間に限りがあり仕方ないことだが、学校評議員と教職員がお互いに意見交換を活発にして、次年度への課題と改善策について論点を決め、議論が深まる場になることが大切である。  
・海外研修の内容が大変充実している。これからも子どもたちが世界に目を向けるプログラムを充実させてほしい。